

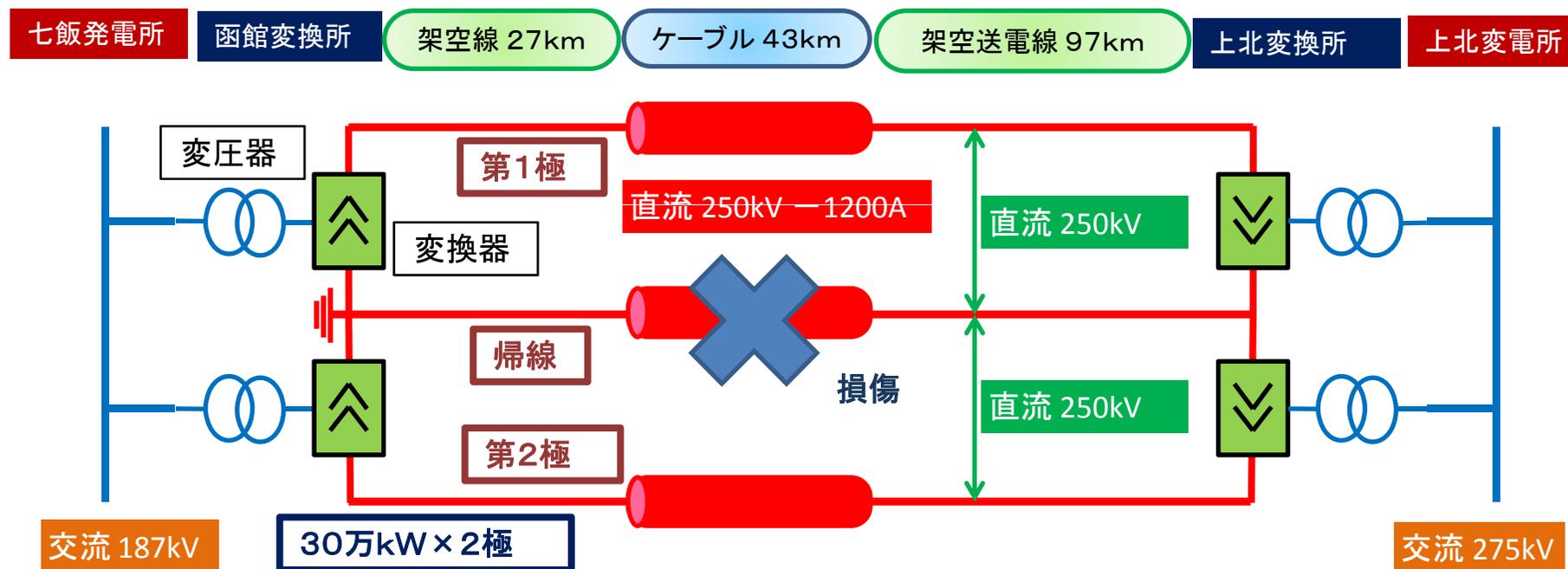
北本連系設備における損傷の影響について

平成24年2月17日
北海道電力株式会社

北本連系設備における損傷の影響

北本連系設備（設備容量60万kW、電源開発(株)所有）は、北海道系統と本州系統を相互に連系する役割を担っており、東地域（北海道、東北、東京）の電力安定供給に大変重要な設備です。

本年1月25日、北本連系設備の海底ケーブルが船舶のイカリにより損傷し、現在、送受電量が60万kWから30万kWに減少しています。現在、電源開発(株)にて調査中ですが、復旧の目処は得られておりません。

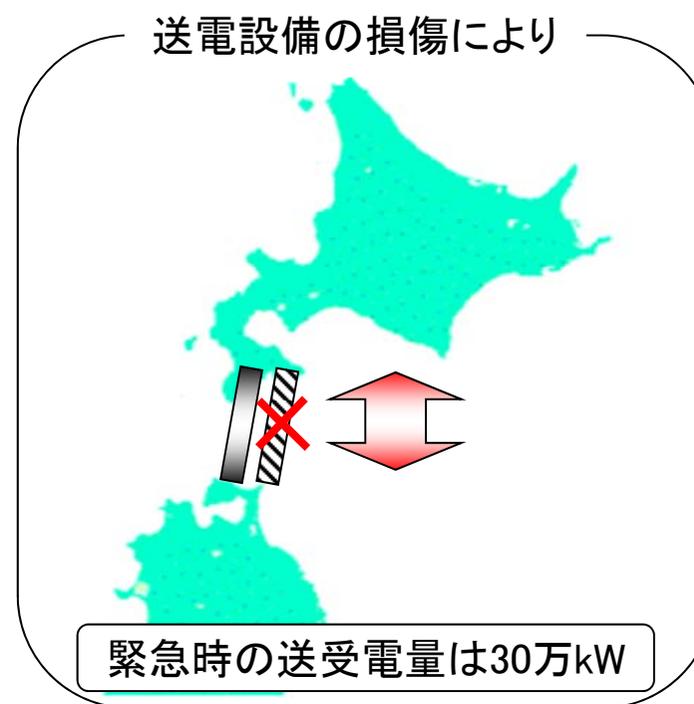
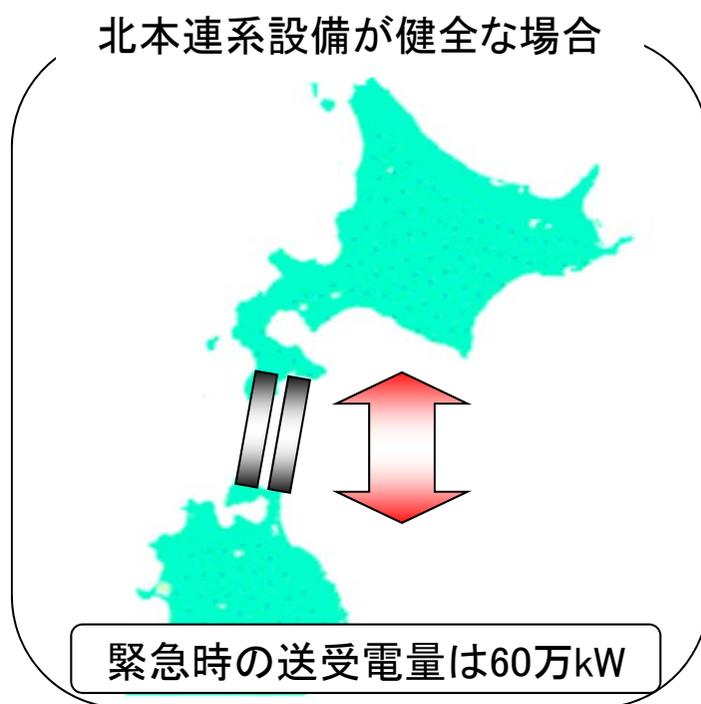


送受電電力が30万kWと半減したことによる需給面への影響は次のとおりです。

(1) 需給逼迫時の影響

北本連系設備の送受電量が30万kWに減少したため、需給状況が厳しい断面において当社が受電できる融通電力が半減します。

このため、発電設備が計画外で停止し需給状況が逼迫した場合には、これを補う融通受電ができず、お客さまにご迷惑をお掛けする可能性があります。



(2) 泊発電所3号機緊急停止時の影響

泊発電所3号機(91.2万kW)が突発的に停止した場合、通常は60万kWを瞬時に受電できますが、北本連系設備の受電量が減少している中では、本州系統へ30万kWの送電を実施し、瞬時の30万kW送電中止および30万kW受電によって60万kW受電と同様の効果となる措置を講じる必要があります。

しかし、現在伊達発電所2号機が停止していることから供給力が減少しており、本州方面への30万kW送電が出来ないことから、泊発電所3号機が緊急停止した場合には、お客さまにご迷惑をお掛けする可能性があります。

